

## 会 議 録

会議の名称	第3回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会
開催日時	平成31年4月19日(金) (午前・ <b>午後</b> ) 2時00分 開会 (午前・ <b>午後</b> ) 5時00分 閉会
開催場所	南館中会議室
議長	山本 博史 氏 (追手門学院大学 地域創造学部 地域創造学科 教授)
出席者	<p><b>【評価委員】</b> 山本博史氏(追手門学院大学地域創造学部教授)、百瀬真友美氏(特定非営利活動法人いばらき市民活動推進ネット)、高田和子氏(東奈良コミュニティセンター会計)、板倉幸司氏(公募市民)、中野利絵氏(公募市民) ( 5人)</p> <p><b>【事務局】</b> 小西市民文化部次長、富崎市民協働推進課参事、三河市民協働推進課職員、中山市民協働推進課職員 ( 4人)</p> <p><b>【担当課】</b> 保健医療課、市民協働推進課、文化振興課 ( 3課)</p>
開催形態	一部公開(傍聴者:0人) ※議題の(4)意見交換以降は非公開
議題(案件)	<p>(1) プレゼンテーションについて</p> <p>(2) 各団体によるプレゼンテーション</p> <p>(3) 質疑応答</p> <p>(4) 意見交換</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会次第</li> <li>・平成31年度 茨木市提案公募型公益活動支援事業 申請事業一覧及び申請書類 (※個人情報を含むため省略)</li> </ul>

○事務局 お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより平成31年度第3回目の「茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会」を開催させていただきます。

まず始めに、山本委員長からご挨拶をお願いいたします。

(山本委員長 挨拶)

○事務局 本日の出席委員は5人でございます。全員出席していただいておりますので、会議は成立いたしております。

それでは、本日の委員会の概要をご説明申し上げます。本日は自由テーマ型事業2件、文化芸術振興事業7件のプレゼンテーションを予定しております。

なお、今回3月募集の要領には、5月1日から事業開始で5月初旬に交付・不交付の決定通知を行うと記載しておりますので、前々回第1回、前回第2回そして本日開催の第3回分を合わせて、速やかに事務局で集計を行い、委員の皆様及び各団体に結果を通知したいと考えております。

また、本日も傍聴の希望はございませんでした。本日の委員会の概要説明は以上です。引き続き、委員長に進行をお願いいたします。

○山本委員長 ありがとうございます。それでは、説明のありましたように、プレゼンテーション及び評価を行い、その集計結果を委員会の意見として市へ報告したいと思います。

また、会議の公開・非公開につきましては、自由な意見交換という観点から、次第の「意見交換」以降は非公開といたしたいと存じますが、いかかでしょうか？

(各委員 異議なし)

○山本委員長 それでは、プレゼンテーションを始めたいと思います。

<団体入室>

○事務局 持ち時間は5分とさせていただきます。30秒前に一度ベルを鳴らしますのでまともに入ってください、5分が経過時点で再度ベルを鳴らしますので、終了していただきますようお願いいたします。

それでは準備がよろしければお始めください。

<プレゼンテーション①>

テ ー マ：自由テーマ型事業 申請事業：妊娠中から出産後までに必要な食育 申請団体：食卓リョウリスト協会
--

○山本委員長 プレゼンテーションは以上です。質疑をお願いいたします。

### 【評価委員との質疑】

- ・対象者を妊婦と産後母合わせて108名としており、昨年度は参加者が少なく9名とおっしゃっていたが、ネットで集客等をして、9名が108名になるという見通しは達成できそうか。  
→前は料理教室を行っていて、本当は食育の話をしたかったが、堅苦しい講座は来てくれないと思い、料理教室にした。妊婦は体が重たく、料理教室になると少なくとも1時間立ったままになる。今回は食育の話をし、妊婦でも安心して食べられるヘルシーなデザートを私が作り、おいておきます。参加費500円で行うので、倍は集客できると思う。  
また、離乳食講座は妊婦向けの講座よりもとても需要がある。周りのお母さん方も離乳食に困っている方をよくお見かけするし、市で開催している離乳食講座は満席でキャンセル待ちになっている。500円なので、多くの方に来てもらえると思う。
- ・今回2回目の申請で、3回目にあたる来年に参加費を千円にするということか。  
→はい。
- ・今回の予算書で協会負担が10万円ほどあるが、今後事業を継続してやっていけそうか。  
→離乳食は前期、中期、後期とあるので、3回コースにしている。一人3回は来てもらっている。妊婦コースに来てもらったときに、離乳食コースも案内している。
- ・印刷製本費のところ、印刷2,500円、配布資料5,000円とあるが、教科書代わりに参加された人に渡すということか。  
→はい。
- ・1冊いくらぐらいで作っているのか。  
→配布資料というのは、レシピで、参加されたら1～2枚資料として持って帰ってもらっている。
- ・印刷物のチラシはどれぐらい刷る予定か。  
→200～300枚の予定。
- ・それを18回分か。  
→はい。
- ・チャレンジいばらき補助金に応募している他の団体でも、イオンを利用して子どもの遊び機会を与える活動をされている団体もある。そのようなところでチラシを配らせてもらう等、繋がりをもてると良いのでは。

○山本委員長 それでは、担当課に本事業に関しまして、意見をお願いいたします。

### 【保健医療課の意見】

- ・昨年も少し周知の面でご協力させていただき、市が行う妊婦さん等が対象の教室の際にお知らせをさせていただいた。離乳食コースも3回開催する等、市が及ばないところにもこだわってやっていただけるので有難く思っている。

※以下、質疑及び担当課意見のみ記載

## <プレゼンテーション②>

テ ー マ：文化芸術振興事業

申請事業：茨木の魅力を未来につなぐ芸術作品（写真含む）及び展示発表作品による  
絵ハガキ作成

申請団体：茨木美術協会

### 【評価委員との質疑】

- ・事業名についてだが、去年は絵ハガキという文言は入っていなかったが、今年度は絵ハガキ作成とある。予算書には絵ハガキという文言は入っていないが、いつ作成する予定か。  
→今回絵ハガキを作るにあたり、協会会員の展示や作品を見て、今年度中にデザイン化したいと考えている。まとまれば制作まで今年度中に行いたい。美術協会の70周年の予算の中で作成したいと考えている。
- ・各関連課にはもう既に相談しているのか。  
→まだしていない。
- ・昨年度は、助成金で「茨木 - 70年の時を超えて - 展」と「西国街道展」を行ったということか。  
→はい。70周年としての作品展を行った。
- ・予算書の中に自己資金21万円とあるが、自己資金はどのようなものか。  
→年間の会費として会員の方から集めて100万円ぐらいになる。
- ・消耗品費で9万円とあるが、これは絵ハガキを作成するためにこれを共用として皆で使うのか。  
→70周年記念事業として大人の美術教室を開催しており、それを行うための消耗品である。絵ハガキを作るための経費ではない。
- ・絵ハガキを作るための経費ではなく、違う講座のための費用となると、補助金を交付する対象がぼやけてしまう。  
→予算書には美術協会の運営全てを計上している。絵ハガキ等の作成には、美術協会の一部の予算を使って行う予定である。
- ・事業内容のところだが、美術協会の会員が作品をまず作り、展示発表をするとあるが、作品を作るのは、美術協会の会員に限られるのか。  
→はい。
- ・多くの人と交流・意見交換を行うとあるが、具体的にどのようなものか。  
→一般のギャラリーのところで展示会を行い、そこで直接お話ししようと考えている。
- ・絵ハガキの用途はどのようなものか。  
→優秀な作品が出てくるので、茨木市のPRも兼ねて皆さんにお配りしようと思う。
- ・配布方法はどのようにする予定か。  
→具体的には、有料か無料かも含めてまだ考えていない。
- ・予算書の中に今回申請している事業以外にも美術協会の他の事業の予算も含まれているのは、少しおかしいのではないか。

- ・昨年度の事業の来場者数はどれぐらいか。  
→70年の時を超えて展は、2か月近くで300名ぐらいである。

### 【文化振興課の意見】

・茨木美術協会は、美術展を含めて様々な取り組みで市にご協力いただいている団体である。今回の申請事業については、絵ハガキの作成のみに重きをおいているわけではなく、茨木の魅力を伝える芸術作品の制作と展示発表に重きをおき、それを更に周知する手段として絵ハガキの作成を検討している。制作や発表だけにとどまらず、文化芸術を通じた街づくりに着目しておられ、茨木市の魅力を伝えていただいているので、担当課としてもこれからも活動を継続していただきたいと考えている。

### <プレゼンテーション③>

テ ー マ：文化芸術振興事業 申請事業：平成白川座 申請団体：平成白川座実行委員会
---

### 【評価委員との質疑】

- ・今後の展開として、関係者・支援者を拡大していくとのことだが、昨年度の収支決算書の団体寄付金6万円と、支援者寄付金の2万6千円は今年もほぼ同額を予算書に計上されている。補助金の8万円を今後自立していくのであれば、寄付金を増やすか事業を縮小しなければいけないが、今後の見通しは。  
→続けていくために皆さんからの寄付を増やしていかなければならないと考えている。出演者の謝礼として、8万円ぐらいはかかってしまうが、3回目の補助金も終わるので、もう少し輪を広げていきたいと思う。
- ・参加者の予定が100名とのことだが、アンケートを見ていると、110名の入場者のうち、半数がアンケートに答えていて、そのうち20代が1名でその他は50代以上とある。若い人はなかなか呼びにくいのか。  
→はい。
- ・公演の内容によっては若い人を集客できるものもあると思う。  
→プロのミュージシャンも呼びたいが、3時間ぐらいで配分も難しい。若者向けのものも入れていきたいが、地域で活動されている団体も伝統文化も入れると時間が限られてしまう。
- ・自立の方法として、毎年プロを入れるのが難しいのなら、何年かに一回をプロに参加してもらい、それ以外は自分たちの発表会にするとか、プロが出るとであれば、ワンコインぐらいの入場料をもらうとかもあると思う。
- ・名称は平成のまま続けるのか。  
→明治座もあるので、令和に変える予定はない。

### 【文化振興課の意見】

・平成白川座は、第1部を文化サークルの発表、第2部を伝統芸能の鑑賞と、特徴のある構成をしている。サークルの発表と普段あまりふれる機会が少ない伝統芸能の講談を同じ日に行っていることで、気軽に参加できる雰囲気をつくり、双方にとって新しい出会いをつくる機会となっている点は文化芸術の振興に値すると考えている。

### <プレゼンテーション④>

テ ー マ：文化芸術振興事業

申請事業：茨木三曲協会第50回邦楽演奏会

申請団体：茨木三曲協会

### 【評価委員との質疑】

- ・今後の展開として、邦楽演奏会は継続して開催していくが、記念演奏会は今年度のみで、来年からは、自主財源で運営していくとあるが、補助金の申請は今年度のみということか。  
→そのつもりである。
- ・会場ロビーに展示物を設けるとあるが、どのようなものを展示するのか。  
→茨木市史から抜粋したものとわがまち茨木の人物編をコピーしたものを拡大する。
- ・その展示物の制作の費用等は計上しないのか。  
→あまり費用がかからないように拡大コピーをするぐらいで考えている。
- ・曲の録音等は考えていないのか。  
→今のところ考えていない。できれば録音として残したいとは思っている。
- ・録音してCD化しても良いのでは。  
→検討したいと思う。作曲家もそのように望んでいると思う。
- ・来場者目標を250人としているが少し控えめなのではないか。  
→センターホールの定員は分からないが、見山の地区や各公民館にもチラシを置かせてもらっているので多くの方に来てもらいたい。
- ・プログラムを500部印刷するのであれば、来場者は250人よりもう少し多く来てもらいたい。  
→私も少ないと思うので検討したい。
- ・作曲料が大きいので、CDにするのは難しくてもYouTubeにアップするのなら無料でできるので、スキルがある方がいれば是非考えてもらいたい。  
→作曲者や出演者の意向もあるので、即答はできないが。
- ・曲自体もまた演奏する機会があれば演奏していただきたい。  
→機会があればできると思う。
- ・定時総会の議事録で、50年を機に解散しようかという記載があるが。  
→個人的な発言で、まだ具体的に決まっていない。できるだけ続けていきたいが人数は減ってきているので、相談しながら考えていきたい。

### 【文化振興課の意見】

・茨木三曲協会は、市の委託により邦楽演奏会を開催する等、市内における邦楽の保存、普及にご尽力いただいている団体である。特に今回の申請事業においては、あまり知られていない郷土の偉人について、邦楽の分野からスポットをあて、意欲的な取り組みを予定されている。参加者の郷土愛の醸成にもつながると思われる点においても評価できる。

#### <プレゼンテーション⑤>

テ ー マ：文化芸術振興事業 申請事業：日本伝承芸能茨木市同好会第4回発表会 申請団体：日本伝承芸能茨木市同好会
--

(プレゼンテーション不参加)

#### <プレゼンテーション⑥>

テ ー マ：文化芸術振興事業 申請事業：ぼちぼちいこか〜！音楽祭 申請団体：モモプロ
--

#### 【評価委員との質疑】

- ・事業内容のところに、毎月1回、ぼちぼちいこか〜！事務局が主催しとあり、3月16日開催したチラシにはぼちぼちいこか〜！スタッフとある。ぼちぼちいこか〜！とモモプロの関係性がよくわからないのだが。  
→ぼちぼちいこか〜！というのがもともとやっていた団体で、少しずつ出演者が増えてきて、その中でももっとステップアップしたい人たちでプロダクション形式でやっていきたいということがあり、モモプロを作った。
- ・事業内容のぼちぼちいこか〜！事務局が主催しとなっているところは、モモプロが主催しと置き換えて考えてもよいか。  
→はい。
- ・出演者謝礼として2,500円×11回とあるが、出演してみたいという方への謝礼か、別の出演者への謝礼なのかどちらか。  
→ベテランのプロの方への謝礼である。
- ・3月16日に開催したものは、小学生以下無料、中高生500円、それ以外は1,000円とあるが、これは入場料のようなものか。  
→はい。お店に払うチャージ料である。
- ・予算書には入場料500円となっているが、今回下げたということか。  
→一般のお客さんが入ったことに対して、500円お店から返してもらえる。出演者の人がお客さんを連れてきて、そこに返してあげている。

- ・今回の予算は入場料22万円となっているが、去年はどれぐらいの収入があったのか。  
→毎回40名ぐらいの参加者がある。
- ・一番の目的がひきこもりの方など色々な方に来てもらうということだったが、そのような方がどれぐらい来ていただいているかは分かるのか。  
→虐待をしている人に一番来ていただきたいが、実際は分からない。ひきこもりの方は、その親御さんが来たりしている。発達障害の方の出演は増えてきている。スタッフにも発達障害の方がいる。
- ・会場使用料247,500円とあるが、場所のチャージ料と言っていたものか。  
→お店に千円入り、そこからお客さんを2人連れてくるごとに500円返している。
- ・チラシにある千円はお店がとっているということは、お店のチラシか。  
→お店によって私たちに一度受け取ってほしいというお店と、お店に払ってから人数分戻してくれるお店がある。
- ・入場料として入ってくるお金とは別にお店に会場使用料を払っているということか。  
→いいえ。会場使用料は昨年を参考に計算していて、昨年お店に払っている金額である。千円もらい、500円がお店に入り、500円が私たちに入る。
- ・500円お店に入るもの以外に会場使用料を払っているのか。  
→いいえ。今年は補助金をいただければ、会場使用料のみ支払う。入場料は500円にする予定である。
- ・会場が千里丘や豊中、高槻となっているが。  
→この補助金に対しての事業は、茨木で開催する予定である。茨木の方を中心に集まってもらう。
- ・茨木で11回開催するということか。  
→はい。
- ・今年補助金がでたら、参加者は昨年千円払っていたが、500円になるということか。  
→はい。
- ・それであれば、是非もっと人数を増やしていただきたいと思う。  
→はい。
- ・ひきこもりの方を対象にされているが、ひきこもりの方を呼び出して舞台上上がってもらうというのは、非常にハードルが高いように思う。参加の工夫をもう少し考えていただきたい。
- ・どのようなことをしてそのような方々に参加してもらうのか。  
→非常に難しいが、音楽による広がりはずごい。
- ・知的障害のある方も音楽が好きな方が多い。ひきこもりの方も支援団体とつながりをもった方がよいのでは。  
→検討します。

#### 【文化振興課の意見】

- ・今回の申請事業は、単なる演奏会に留まらず、音楽を通じた人とのふれあいやコミュニティづくりを目的にし、それらをホールではなく、カフェなど人が来やすい場所で開催されて

いる点も評価できる。

(山本委員長 所用のため退席、以降百瀬副委員長が進行役)

### <プレゼンテーション⑦>

テ ー マ：文化芸術振興事業 申請事業：里山まつり舞台設営運営協力 申請団体：MASSHI project
---

#### 【評価委員との質疑】

- ・収支予算書で自己資金15万円とあるが、誰が負担するのか。  
→主に私です。
- ・里山まつり運営委員会というものが別にあり、そこから支援があるのか。  
→はい。主催の団体である。
- ・茨木の団体か。  
→里山センターにある。
- ・里山まつり自体はどここの運営になるのか。  
→里山まつり運営委員会である。
- ・そこに参加しているのか。  
→メンバーではないが、協力団体である。
- ・主催者が別にあり、協力という事業で補助金申請は、少し違和感がある。茨木市の直接的な色々な活動を支援する活動は必要だが、里山まつりを協力する事業というのは、事業の効果は里山まつりの効果になってしまう。  
→森が音楽会が団体のメインの活動で、その活動の一環である。
- ・森が音楽会というのは、MASSHIprojectが主催で行っている事業か。  
→その通りである。
- ・MASSHIprojectという母体があり、各イベントごとにプロジェクトチームをつくり、そのプロジェクトチームが他の色々なイベントを手伝うが、MASSHIprojectとしては森の音楽会をもっと進めていきたいということか。  
→はい。
- ・今回の支出の45万円は全て里山まつりに係る費用か。  
→はい。
- ・事業目的が協力するという目的だと公益なのかとなるので、事業目的は森が音楽会という公益性の高いイベントを進めるというものだとわかりやすいのだが。  
→目的はその通りです。もっと人に知ってもらいたい。

#### 【文化振興課の意見】

- ・MASSHIprojectは、文化芸術に携わっている人々や団体を、ジャンルを超越してつなげる役

割を担っておられ、風物詩となったイベントもある。今回の申請事業は、既存の里山まつりへの協力という形ではあるが、里山まつりに新しい文化の風を吹き込むことになり、公共施設が少なく、イベントを開催しづらい地域を盛り上げる事業になるのではと考えている。

### <プレゼンテーション⑧>

テーマ：自由テーマ型

申請事業：「利他の心」で集う100人SDGsカードゲーム

申請団体：「利他の心」でSDGs実行委員会

#### 【評価委員との質疑】

- ・収支予算書に人件費10万円、講師料25万円とあるが、内訳は？  
→講師料には、ファシリテーターも数名参加してもらうので、その方々の分も含んでいる。人件費はスタッフ20名ほどの予定で、交通費も含んでいる。当日だけではなく、何度も集まるので、その時の分も払いたいが、検討中である。
- ・単価では計算していないのか。25万円の根拠は。  
→25万円絶対払う確約はしていないが、参加費収入で30万円あった場合は、25万円払うと言っている。5万円ぐらいは団体の諸費用に充てて、残った分は講師料にする予定である。
- ・カードゲーム100人とあるが、100人来たとしたら何人のスタッフが必要か。  
→カードゲームをするスタッフは4人。二つのグループに分けて、ファシリテーターとカード裁きのスタッフが一人ずつ必要なので合わせて4人である。4人だけでイベントはできないので、他にもケアするスタッフも必要であるし、受付も必要である。
- ・参加費30万円ということだが、一人3千円を払うメリットはあるのか。メリットがわかりづらいと人を集めるのは難しいのではないか。  
→やりたいという思いが強いが集まるかどうかは分からない。SDGsは上からきているものなので、本当は上がやるべきものであり、草の根レベルでSDGsを流行らすのは難しい。どこかのスポンサーに30万円払ってもらえるのなら、参加費無料でやりたいが。
- ・参加費収入のところも、支援者を探せば参加費を下げたいという考えか。  
→できれば無料でやりたい。
- ・関西にもSDGsカードゲームができるファシリテーターは多数いる。あえて遠くから呼ぶ必要性はあるのか。  
→ヒロミズさんは、アメリカで三年間プロセスワークを学び、帰国してから葛藤と対立を対話で解決するイベント等を行っていた。私はたくさんの怒りを抱えていたときに色々な苦しみを解消してくれた。SDGsカードゲームは資格があればできるのだが、ヒロミズさんのように葛藤と対立を対話で解決できるファシリテーターはあまりいないと思う。プロセスワークを用いたSDGsカードゲームを開催したらおもしろいと思う。
- ・今までの3回ともヒロミズさんは参加しているのか。  
→はい。今後も来てくれる予定で、SDGsカードゲームだけではリピーターがいなくなってしまうので、カードゲームだけではなくSDGsを学ぶ学習会にしようかという話も出ている。

初めて行う人にはカードゲームが一番わかりやすいのだが。

- ・心配しているのは集客である。大阪市内でもテーマごとにSDGsに沿って市民として何かできるかを行っている。
- ・集客の広告として、広告料6万円ぐらいを考えている。SNSだけでは難しいので何かに載せてもらったりしないといけないと考えている。

### 【市民協働推進課の意見】

- ・市長も市とはどのようなものかという、持続的に発展を続けていくのが市役所の役割であると言っている。SDGsという言葉は最近耳にするようになり深く理解できていないが、必要性は感じている。カードゲームという形で体験し理解できることは良いことである。

### <プレゼンテーション⑨>

テ ー マ：文化芸術振興事業

申請事業：real SOU #3「SOU」のほんもの作品展

申請団体：One Art Project

### 【評価委員との質疑】

- ・開催日時は。  
→7月13～15日と19～21日の2回の週末に開催したいと考えている。
- ・去年は3日間か。  
→はい。
- ・人件費がほぼ倍になっているのはそのためか。  
→はい。
- ・ワークショップの材料費は、今回は収支に入れず、実費をもらってその分返すということか。  
→はい。
- ・どのような場所を使うかは決まっているのか。  
→茨木の商店街にある公設市場の空き店舗の一部をお借りして展示させていただく予定である。
- ・展示する場所もギャラリーに向くような場所を選んでいるのか。  
→ギャラリーのような真っ白なしっかりしたスペースではなく、アート作品がどのような場所に合うかを私たちが考え、そのような場所を予定している。
- ・総持寺の反響は。  
→現在、4月から9月まで3回目の展示となっており、回を重ねるごとに確実に周知できてきている。アンケートをとった結果も好評である。追手門大学の一部が移転したこともあり総持寺駅の利用客も増えてきている。展示を見ていただける機会も増えていると思う。
- ・大学との連携や地域との連携はあるか。  
→移転してきたばかりで大学側も忙しいようだが、来週にお会いする機会を設けている。

### 【文化振興課の意見】

・ One Art Projectが手掛けるイベントは、いずれもまちとアート、そして人々とのつながりに着目したイベントである。JR総持寺駅の作品は正に茨木市の入口として、関連イベントを通して作品や作家の魅力をより深く掘り下げようというのが、今回の申請事業である。これまでにはなかったようなものに積極的にチャレンジしている姿勢に担当課としては期待している。

○百瀬副委員長　以上で、全てのプレゼンテーションが全て終了いたしました。ここで10分程度、委員相互の意見交換をしたいと思います。冒頭で決定しましたとおり、これ以降は非公開といたします。

《以降、非公開》

以上